

令和4年 8月17日

実施報告書

文部科学大臣 殿

申請者（主催者代表）

団体名 東京都美術館

代表者職・氏名 館長 高橋 明也

展覧会における美術品損害の補償に関する法律に基づいて令和3年7月29日に文部科学大臣と美術品補償契約を締結した展覧会が終了しましたので、実施報告書を提出します。

## 1. 開催概要

| 展覧会名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント          |           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|-----------|
| 開催施設名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 会期                               | 入場者数      |
| 東京都美術館                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 2021 年 9 月 18 日～2021 年 12 月 12 日 | 307,750 人 |
| 福岡市美術館                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 2021 年 12 月 23 日～2022 年 2 月 13 日 | 124,297 人 |
| 名古屋市美術館                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 2022 年 2 月 23 日～2022 年 4 月 10 日  | 131,851 人 |
| <p>●開催概要</p> <p>今回のゴッホ展では、20 世紀初頭にファン・ゴッホ(1853-1890)の芸術に魅了され、その世界最大の個人収集家となったヘレーネ・クレラー＝ミュラー(1869-1939)に焦点を当てた。ヘレーネは、ファン・ゴッホがまだ評価の途上にあつた 1908 年からおよそ 20 年で、鉄鉱業と海運業で財をなした夫アントンとともに 90 点を超える油彩画と約 180 点の素描・版画を収集した。ファン・ゴッホの芸術に深い精神性を見出したヘレーネは、その感動を多くの人々と分かち合うべく、生涯にわたり美術館の設立に情熱を注いだ</p> <p>本展では、クレラー＝ミュラー美術館からファン・ゴッホの絵画 28 点と素描 20 点を展示。フィンセント・ファン・ゴッホの世界最大の個人収集家となったヘレーネ・クレラー＝ミュラーのコレクションから、ミレー、ルノワール、スーラ、ルドン、モンドリアンらの絵画 20 点もあわせて展示し、ファン・ゴッホ作品を軸に近代絵画の展開をたどる、ヘレーネの類まれなコレクションを紹介した。さらに、ファン・ゴッホ美術館から 4 点を展示し、20 世紀初頭からファン・ゴッホの人気と評価が飛躍的に高まっていく背景を紹介した。</p> |                                  |           |

## 2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

### 【入場料の無料化・軽減等】

#### ●東京都美術館

65 歳以上の入場料を 100 円引きにし、高校生の入場料無料化を実施した。

入場者数:65 歳以上 4.1 万人 高校生:0.5 万人

<軽減金額>

4.1 万人×100 円=410 万円

0.5 万人×800 円=400 万円

#### ●福岡市美術館

一般区分の入場料を 100 円引き、大学生以下の区分の入場料を 300 円引きにした。

入場者数:一般:9.6 万人 大学生以下:1.7 万人

<軽減金額>

9.6 万人×100 円=960 万円

1.7 万人×300 円=510 万円

#### ●名古屋市美術館

入場料全区分(一般・高大生)を 100 円引きにした。

有料入場者数 11.4 万人

<軽減金額>

11.4 万人×100 円=1140 万円

【予定軽減金額:3,324 万円 実績:3,420 万円】

### 【展示作品の質・量の充実】

本制度の適用により、クレラー=ミュラー美術館のファン・ゴッホ以外の重要なコレクションの借用料に充当することができた。ヘレーネ・クレラー=ミュラーが収集したファン・ゴッホ以外の作家を合わせて展示することでファン・ゴッホ作品を軸に近代絵画の展開をたどることができ、ヘレーネの類まれなコレクションを紹介することができた。

【予定軽減金額:665 万円 実績:665 万円】

### 【教育普及活動の充実】

ヘレーネ・クレラー=ミュラーの紹介と、実際に作品がオランダから日本まで輸送され、美術館で展示されるまでの行程を紹介する映像をジュニアガイドとして作成し、東京・福岡展では展覧会ホームページで公開、名古屋展では展示映像として紹介した。本映像の作成は、クレラー=ミュラー美術館の特別許可を得ることで実現した非常に貴重なものであり、ホームページで一般公開をおこなったことで小中学生に対して美術作品の展示までの流れを知る貴重な機会を提供することができた。

【予定軽減金額:170 万円 実績: 200 万円 】

### 3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

・2022年3月12日(土)、13日(日)に、名古屋市美術館において一時的に展示条件の湿度の規定値を超える事象が発生した。空調機の温湿度を制御するコンピュータによるデータ通信の異常によるもので、14日(月)朝に復旧。並行してすべての作品に異常がないことを確認し、文化庁、所蔵館に報告した。

・2022年4月1日(金)に、名古屋市美術館展示室1階において、展示条件の湿度の規定値より低下する事象が発生した。展示室1階の加湿機能不調によるものと原因が判明、翌2日(土)開館前に部品交換を行い、正常稼働に復旧した。この間、深夜帯も含め、職員が常時湿度の推移を監視し、正常稼働している2階の展示室との通気を確保するなどして環境維持に務めた。また展示室1階に展示中のすべての素描作品を点検し、異常がないことを確認。文化庁、所蔵館に報告した。

### 4. 安全配慮に関する特別の対応

クレラー＝ミュラー美術館からは事前に副館長・警備担当者が来日し、会場内の警備体制を複数回視察するなど、所蔵館、主催者、輸送会社間で綿密に警備体制や輸送方法について協議を行った。

新型コロナウイルス感染症に関する水際対策が強化されたことにより、日本への外国人の新規入国が非常に困難となったが関係各所と調整した結果、全ての作品輸送、展示、撤去時に所蔵館側のクーリエの立会いが実現した。

渡航制限のため所蔵館側のクーリエの派遣人数が制限されたため、主催者側の修復家だけでなく、所蔵館側の指定する国内の修復家に依頼をして各会場を通して作品の状態確認を行った。日本側スタッフについても通常の展覧会よりも増員して、所蔵館側クーリエの指示の元、安全に配慮しながら全ての作業を行った。また、各会場での展示・撤収時の様子は、オランダとオンラインで映像を中継し現地所蔵館にも確認をとりながら、作品の状態確認を行った。

作品返却時も所蔵館側・日本側とで協力して全てのフライトにクーリエを同乗させ、作品が所蔵館に到着するまで細心の注意を払った。

## 5. 紹介事例・今後の改善点等

「ファン・ゴッホ」に焦点をあてた展覧会はこれまでに日本でも数多く開催されてきたが、本展はその作品のコレクターに焦点を当てた初めての展覧会となった。初期の素描から晩年の油彩までのファン・ゴッホの画業をたどるとともに、いかにファン・ゴッホの評価が形成されたかを紹介した。ヘレーネが美術館を開いた当時の展示室の写真を展示室壁面に演出として用いたり、コレクションの形成過程を説明するグラフを展示するなど、ヘレーネ・クレラー=ミュラーのコレクターとしての業績も合わせて紹介した。

また、2005 年以来ほとんどの展覧会に貸し出されていなかった、クレラー=ミュラー美術館のフィンセント・ファン・ゴッホの《夜のプロヴァンスの田舎道》、ファン・ゴッホ美術館の《黄色い家》の来日が実現し、来場者に貴重な美術品を鑑賞する機会を提供した。

東京、名古屋、そして中でも福岡では約 10 年ぶりとなるゴッホ展の開催が実現し、新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、各会場で日時指定制の導入や、入場者数の制限を行う中でも 3 会場合わせて約 56 万人が来場した。美術品補償制度の「国民が美術品を鑑賞する機会を拡大する」という目的を達成できたと考えている。

また、チラシやポスターなどの印刷物や公式 HP、会場入口の看板などに、本展が美術品補償制度の適用を受けている旨を記載し、来場者に対しても周知を行った。

## 6 展覧会の収支決算書

主催者名

(共通経費・東京展)公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、東京新聞、TBS  
(福岡展)福岡市美術館、西日本新聞社、RKB毎日放送  
(名古屋展)名古屋市美術館、中日新聞社、CBCテレビ

### ●収入

| 内 訳          | 決算額        |
|--------------|------------|
| 展覧会収入・その他の収入 | 181,129 万円 |
| 共催者負担        | 万円         |
| 収入総額         | 181,129 万円 |

### ●支出

| 区分           | 決算額        |
|--------------|------------|
| 企画準備等基本経費    | 133,393 万円 |
| 設営・運営等会場関係経費 | 47,736 万円  |
| 支出総額         | 181,129 万円 |